

育てよう 鏡野のよい子シリーズ



子どもを見つめる

五月初めのことである。一日の学習を終えて、集団下校をする低学年に付き添って歩いた。並んで歩くうちに先頭の子と二番目に歩く子に、自然と間が空いてきた。

その時のことである。二番目を歩く少し遅れ気味の子どもが、

「ごめんね。私が歩くのが遅いけん…。」
そう、声をかけた。先頭を歩く子どもは、少し振り向き

「そんなこと気にせんでいいよ。」と優しく言った。

「ごめんね。私が歩くのが遅いけん…」
この言葉は、この場において珠玉の一言であった。もし後ろの子が

「もつと、ゆつくり歩いてえや。」と言っていたら、あるいは、先頭の子が「速く歩け。」とか、私が、「後ろの人のことを考えて、歩きんちやいや。」と声をかけていたらどうだっただろう。和気あいあいと帰る子どもたちの姿を見ながらいろいろなことを考えさせられた。

生まれて数年の子どもたちでも、

多くの力を身に付け、時には大人よりも力を発揮する場面がある。

そう感じて、改めて子どもたちの姿を見直すと、今まで気付かなかったいろいろなことも見えてくる。

「できない。無理。」
を口にしていた子どもが、いつの間にか泳げるようになる。

「できると自分に言い聞かせたらできるようになった。」

と、自分をコントロールするコツも自分で学んでいた。

そして何より「そこにいるだけで人を癒すことができる力を持つ。」のは子どもだからではないか。そう思うと子どもたちは、尊敬される存在であるものだ。

「リスペクト(尊敬)」という英語の語源は、「見つめる」だ。

しっかりと子どもを見つめ直すことで、子どもたちをリスペクトして見ることができているのではないかと思っている。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会

香々美小学校 安藤 美枝

のびのびひろば

(鶴喜保育園)

～秋だ!!自然とあそぼう!!～

鶴喜保育園では、1年を通して、鶴喜小学校の里山へ行って、遊んでいます。春は遠足から始まり、タケノコ掘りやわらび取りをします。

そして、秋本番! 昆虫探しや栗拾い、落葉拾いなど、秋を見つけたり、斜面に備えてあるロープを使って登ったり…。まさに里山は、子どもたちの遊びの宝庫! 新鮮な空気を吸いながら、高低差のある場所を歩いたり走ったりすることで心身ともにたくましくなっています。

秋空の下、心地よい風に誘われて、大人も自然の中で遊んでみると、開放感とともに心もリフレッシュされますよ!

むしさん、いないかな…



くり、みつけ!!



みんなきてきて! これ、なんだろう?



トンボ、つかまえたよ!



～わらべうたであそぼう!～

親子のふれあいが
できて楽しいですよ!

『にくやのおじさん』(2人組手遊び)

にくやのおじさん にくきって
たたいて つねって まっくろけ
かいだんのぼって こちょこちょ
そうきんしぼって あっちいけ～



くすぐった～い!